

令和4年度第8回石狩市浜益区地域協議会議事録

【日時】 令和5年1月23日（月）18:00～19:12

【場所】 浜益支所2F 庁議室

【資料】

- 1) 会議次第
- 2) 浜益冬のあんしん事業（おためし編）・実証実験案
- 3) エネルギー供給の強靱化に関する意見交換
- 4) 地域おこし協力隊インターン募集要項

【出席者】 9名（13名中）

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
会長	渡邊 隆之	○	委員	渡邊 真奈美	○	委員	水崎 理	○
副会長	佐藤 晃一	○	委員	阿部 ゆかり	○	委員	徳田 和之	○
委員	岡本 俊介		委員	木村 美幸	○	委員	柿岡 奈々絵	○
委員	久慈 貞子		委員	徳地 克実	○			
委員	鳴海 翔		委員	赤間 香子				

- （支所） 高橋支所長、開発市民福祉課長（併 浜益生涯学習課長）
伊藤市民福祉課保健福祉担当課長（兼 はまます保育園長、浜益国保診療所庶務課長）
川村集落支援員
- （本庁） 加藤再生可能エネルギー担当課長、天野主事
（リモート出席）宇野企画課長、芳賀主査
- （説明員） 一般社団法人バイオマス発電事業者協会 森 一晃氏 他1名
- （事務局） 佐々木地域振興課長、佐藤（慎）主査

【傍聴者】 2名

【会議次第】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 協議事項
 - (1) 高齢者に優しいまちづくりについて
- 4 その他
 - (1) エネルギー供給の強靱化に関する意見交換
- 5 次回の開催日程について
- 6 閉会

1 開 会

【事務局】

令和4年度第8回浜益区地域協議会を開会いたします。
はじめに、渡邊会長からご挨拶をお願いいたします。

2 会長あいさつ

【渡邊会長】

新年あけましておめでとうございます。今年のお正月は多少天候が崩れましたが、大みそかと元旦は、いつになく穏やかなお正月を迎え、先々週は春を思わせるような気温で、除雪も一休みというところでありましたけれども、20日が大寒ということもあり、再び真冬が続き、除雪にご苦労されていることと思います。また、新型コロナウイルス感染症も減少傾向にはありますが、オミクロン株の新たな変異ウイルスBQ1や、XBBが道内で確認されており、引き続き感染予防対策の徹底に努めていただきたいと思います。今春あたりから、5類への変更というような話もありますが、予断を許さない状況です。よろしくをお願いいたします。

今年は、癸卯（みずのとう）年ということで、癸は新たな生命の成長を表し、卯はその姿から家内安全や飛躍向上を象徴し、更には豊作を意味しています。こういったことから、新しいことに挑戦するのに最適な年と言われております。当地域協議会も、より一層の飛躍、向上を目指し、実り多い年となりますよう皆様とともに取り組んで参りたいと思います。

皆様方におかれましては、健康で素晴らしい一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

さて、今日の議題は、継続協議事項であります、高齢者に優しいまちづくりの、浜益冬のおんしん事業実証実験についてと、その他といたしまして、エネルギー供給の強靱化に関する意見交換となっております。限られた時間ではありますが、委員の皆様の活発なご意見等をお願いいたします。

【事務局】

本日の会議は、出席委員が13名中9名出席し、過半数に達しておりますので、成立していることを報告いたします。

3 協議事項

【渡邊会長】

それでは、協議を進めてまいりたいと思います。協議事項の（1）高齢者に優しいまちづくりについて、事務局から資料の説明をお願いします。

【事務局】

浜益冬のおんしん事業・おためし編について説明いたします。

事業実施日については1月27日金曜日と2月22日水曜日の2回実施します。排雪実施場所は、カフェローバー前及び浜益ベース前です。使用する重機や車両については、4tダンプをスポットリースで確保します。ホイールローダーは、カフェローバーの作業時に佐藤副会長所有のもの、浜益ベースの作業時には、田中誠さん所有のものをお借りします。ホイールローダーのオペレーターについては、佐藤副会長に担っていただいて、4tダンプについては支所職員が運転し、雪を積み込んで、雪捨て場である旧浜中グラウンドへ運び込む作業を繰り返します。

また、ダンプとホイールローダーには実証実験中と掲示します。

当日の流れは、雪寄せと安全確認の作業員のメンバーが午前9時に浜益支所に集合し、スノーダンプや雪寄せ用スコップ等も積み込み、公用車に乗り合わせて現地へ出発します。それぞれの排雪実施場所において雪寄せ、安全確認等を担当し、職員1名が記録係として、作業時間や運搬回数、作業状況、人員配置について記録を行ってまいります。念のため国道の除排雪を行っている岸本産業にも作業手法について確認をしたところ、国道側へ作業関係車両は出ずに、歩道で雪をすくい、取り付け道路側でダンプへの積載をおこなって、車両や通行人等の安全確保ができる、警備員の役割の方を配置していただきたいとの助言をいただきました。

この人員配置に関わって、ご協力いただけます方の積極的な参加をお願いいたします。

【渡邊会長】

排雪のおためし編、実証実験ということで、今年は2回、1月27日金曜日と、2月22日の水曜日に実施するということです。どなたかお手伝いいただける方をこの場で募りたいと思います。

私はお手伝いさせていただきたいと思っております。他に誰かやってみたい、是非参加したいという方がいましたら、積極的に手を挙げていただけたらと思います。

【事務局】

肉体労働だけではなく、記録や写真撮影の役割もありますのでよろしくをお願いします。

【柿岡委員】

具体的に何人程度必要ですか。

【事務局】

カフェクローバーについては、重機でダンブに積み込む作業がメインなので、安全確保の役割を担う方が2、3名いると助かります。

浜益ベースについては、家の裏から、雪を家の前に掻き出す作業があり、実際一般の住宅で、落雪の処理等をする想定をした時に、重機が雪をすくえるところまで移動する作業があるので、人手が多いほうが良いと思います。最大で5、6名確保できればと思っています。

渡邊会長がお手伝いいただけるということでありありがとうございます。また、当日までにご都合がつくような場合がございましたら、事務局の佐藤まで教えていただければと思います。我々職員はできる限り参加いたします。

【渡邊会長】

その他に何か確認したい事項はありませんか。

【柿岡委員】

前回の協議会でも、質問させていただきましたが、この2か所に絞って、あと他の地域の除雪状況のデータ取りは考えていませんか。

【事務局】

考えております。住宅密集地域として、川下、柏木、実田、幌、群別については、市道から住宅までの距離が短いと思っています。基本的に市道から玄関先までの部分で、雪がたまりやすいところを集落支援員の手も借りながら情報を蓄積していきたいと思っています。

【柿岡委員】

そのデータは発表していただけますか。

【事務局】

協議会の場合、事務局の中で共有しながら、データを蓄積していきたいと考えています。

4 その他

【渡邊会長】

それでは、その他に入ります。初めに、一般社団法人バイオマス発電事業者協会の森一晃様から、浜益区におけるエネルギー供給の強靱化に関する意見交換について、配布資料のご説明をいただきたいと思います。よろしくお願いたします。

【加藤課長】

本日はエネルギー供給の強靱化ということで、石狩市内では厚田でマイクログリッドを設置し、停電した時に電力を供給できるような仕組みを作り、再生可能エネルギーを使って様々な取り組みをしています。浜益においても、今後将来に向けて非常時に最低限の安心、安全を確保できるよう、仕組みを作れないかということで、森さんからご説明いただきます。まず、提案をさせていただいて、皆様のご質問やご意見等をざっくばらんにお話できる時間を頂戴できればと思っています。

森さんについては、石狩湾新港においてバイオマス発電事業を10年近く前から企画をさせていただき、間もなく運転開始というところまできており、事業の開始までに多大なご尽力をいただいている部分と、バイオマス発電は木質を利用するので、外国から輸入するものも使います。それ以外にも、山に放置されている林地残材と呼ばれる低質な、なかなかお金にならないような木材が、山に捨てられているという現状があります。それを、地域の森林組合の皆さんにもご協力いただきながら、そうした木材を集めてバイオマス発電の燃料として活用する仕組みづくりに取り組んでいただいている経緯がございます。

それでは、森さんご説明をお願いします。

【森氏】

簡単な説明と、皆様のご意見等を先に聞かせていただいて、浜益区でどういう仕組みづくりが可能なのかということをもとめ、再度、提案をさせていただき、すり合わせをしながら、現実的に実現が可能かどうかを考えていきたいと考えています。

脱炭素社会の実現へ向けて、国を挙げて2050年までに二酸化炭素の排出を0にしようと、全国的に現在取り組まれています。石狩市は環境省の脱炭素先行地域として、北海道で最初に指定されています。今、全国的に脱炭素先行地域の名乗りを上げている状況にあります。私どもの提案は、

行政側がどういう計画でこうしたいうことの前に、この地域でこういった再エネ資源があるのか、それをどう活用できるのかを先に提案させていただき、それを現実的に利用することによって、地域の皆さんがどのような有益なものを教授できるのかを協議させていただいて、一気に全部の仕組みを作り上げるのは難しいので、段階的に、通常の生活の中でこうあれば便利だとか、何かがあったときにどういう備えがあれば便利だということを優先的に組み込みながら、提案をしていきたいと考えています。

浜益区内において、実際にどういう再エネ資源を活用することができるのか調べさせていただきました。今、再生可能エネルギーとして太陽光発電、陸上の風力発電、小水力の発電、バイオマス発電、地熱発電などがあります。こういった再エネ資源が、この浜益区内で活用できる場所があるのか、場所があったとしても、景観が阻害される、生活環境に影響を与える、資源があるから無尽蔵に使っていいということはあってはならないと思います。地域に住んでいる方が、それを使って利便性を感じるために、こういった再エネの資源を、こういった発電方法によって、新たな電気を作っていくのが良いか、今回の提案は、あくまでも浜益区内で使う電力という位置づけで考えています。この地域のための電源という位置づけです。

まずは、皆さんに提案をしてご意見を聞きながら、こういったものが可能だということ把握し、発電の種類によってどれだけの出力が出せるかを計算しながら、我々だけで事業を全て整理することはできないので、色々なステークホルダーという利害関係者、たとえば、電線を使うとなると北海道電力との協議も必要になりますし、法の規制がありますので、属する行政区内の許可が得られるのか、禁止事項の枠内に入っているからそれはできないのか、慎重に調べながら、是非、良い形で提案ができればと考え、本日は簡単な資料を作ってきています。資料を見た中で、皆様方が考える地域の再生可能エネルギーの資源として、こういった物が活用できるのではないかと、意図として聞いたうえで、取りまとめをしながら、提案をしていきたいと考えています。

まずは、どういう事例があり、どういう事が可能なのかという想定として、資料に書かせていただいたものを参考にしながら、再エネの電源を供給するだけでなく、それをベースにして、従来皆さんが生活をする中で、発電時に発生する熱をどう利用するのか、今後電気自動車も普及してくれば、EVのスタンドも用意するほうが良いのではないかと、この地域の避難場所等に緊急用の電源として、再エネを活用したものを設置した方が良いのではないかと等を、検討していただきたいと考えております。

事業の実施については、民間の事業者が行いますので、経済性がある程度伴わなければ、事業としても進めることが難しい部分もありますので、それを踏まえて、どこまで事業化が可能なのかというところです。皆さんからいただいた意見を参考にして、仕組みを作りたいと考えています。現状、浜益区内で対象としている世帯数は、2021年の12月の資料によると一般世帯で711世帯、人口で1,156人です。ちょうど1,000人規模の仕組みとして、考えられますが、1軒、1軒それぞれに再エネ施設を設置するのは無理があるので、まず、代表的な公共施設や、災害時の避難施設、コンビニエンスストア、高齢者のサロン等に対する電源や熱の供給はもとより、跡地利用として、閉校した校舎をどう利用するか、コミュニティセンター、ワーケーションで使ってもらえる施設等に対して、電源と熱の供給も十分考えられると思います。

加えて、人の雇用が発生します。特にバイオマスの発電に関しては24時間運転をしますので、メンテナンスの要員や、山の未利用材を活用した燃料の輸送等の雇用が発生します。電源の管理をする人間も必要になります。

熱利用を考えると、温室ハウスを併設して、高齢者の皆さんの憩いの場として温室を作り、花や野菜の栽培をする等、色々なアイデアがあると思います。今の生活を劇的に変えることではなく、今の生活をベースに、徐々に形を変えていくような使い方をしていくべきではないかと私は考えています。皆さんのご意見を是非、聞かせていただいて、その上でまた改めて、こういう提案ができるというお話をさせていただきたい。そういう手順で何度か話し合いを重ねながら、最終の形でこういう提案はどうだろうか、行政含めてお話をさせていただきたいと考えています。

ここまでのところで不明な点や、ご質問等いただければと思います。

【水崎委員】

この構想は、何年後の稼働のイメージをされているものなのか、何年後の話のイメージなのか。利潤を追求するものなのか教えてください。

【森氏】

利用開始時期については、国も推奨している事業であり、様々な政策、助成制度も国が用意していますので、話がまとまりこれで行きましようという形になれば、そこから2、3年以内には実現

は可能と考えています。民間の企業という言い方をしましたが、行政の考え方もありますし、行政から一部出資をしてもらうということも考えられます。また、北海道電力の送電線ネットワークを使用するため、それに関する協議の場で、場合によっては北海道電力の出資も一部考えられるかと思えます。そういった場合に、当然利益が出ない中での事業運営は継続できません。適正な利益の中で、地域に貢献する度合いが圧倒的に大きくなると考えています。

【徳地委員】

電気を供給するところとして、公共施設の他に工場や加工場なども入っていますが、電気料金はほぼ変わらないですか。電力使用が大きい所だと、電気料金がかなり違うのなら困ります。

【森氏】

海外から輸入した天然ガスや、そういった物を使った発電ではないので、価格については、現状凄く電気料金が上がっていますが、この地域の中で使う電源という考え方でいけば、値上がりする前くらいの金額にはなると考えています。現状より高くなるということは、基本的に無いと思います。高くなるのであれば、取り組む意味が無いと思っています。電気の値段というのも、色々な制度が変わってきており、今、電力事情については、電気を作る発電事業者がマーケットに電気を流して、需要家がそれを買う、夏場の暑い時にはエアコンの利用率が上がって電源がひっ迫します。そういった時には価格はどうしても上がる。北海道の場合は、冬場はどうしても暖房にエネルギーを使わなければならない事情で電気料金が高くなったりします。市場の価格と言っても複雑なのですが、調整事情や、再エネの場合は付加価値をつけるような市場があったり、一般の電力の価格があったり、1年先の物を買うものがあったり、色々なマーケットがあります。その平均の中で、それぞれの電力会社が燃料の調達価格を見ながら、電気料金を調整しているというのが、現状だと思っています。ある程度市場の価格に沿う形で、地域電力という位置付けで考えれば、従来の電気料金のような高い価格にはならないと私は思っています。

【徳地委員】

そもそも、バイオマスボイラーの特徴を教えてください。

【森氏】

バイオマスボイラーは、木質系の物を燃料として運転しながら、電気だけではなく、熱源併給をするものです。我々が今、石狩湾新港の工業地帯で作っているのは、何万世帯分の電気を供給するものですが、今回想定しているのは、普通の一般家庭で使っている電圧の小さいもので発電をするもので、発電する際にエンジンを使います。エンジンを使うことにより、ラジエーターの温水が出ます。その温水を使って、電気と熱を併給する考え方です。大きな施設ではなく、海上コンテナに収まるような装置です。1つのコンテナに機械がおさまり、燃料を入れるコンテナを含め、2つのコンテナを用意して、大体3日分程度の燃料がコンテナの中におさまるので、燃料を配達する物流の仕事がこの地域の中で発生します。また、機械は毎日のように点検をしなければなりません。そのためには、メンテナンス担当の人間が4、5名必要になります。そこにも、地元の雇用が発生すると思います。

【渡邊会長】

浜益区という地区は、災害や暴風雪を原因とした停電が、度々起こっています。そういった時に一般家庭向けの電力の供給、あるいは避難所等での電力供給や熱の供給、そういったことができれば大変良いことだと私は思っています。

浜益区内での再エネ資源の調査はこれからですか。

【森氏】

まだ、何も手つかずの状態です。

【渡邊会長】

今、一般的に問題となっているのは、風力発電での低周波をはじめ、色々な部分で健康被害や環境問題が注視されています。そこが心配だと感じています。太陽光発電やバイオマス、特にバイオマスボイラーでしたら熱の利用もできますので、私は個人的に望ましい形だと思っています。

【森氏】

風力では色々な問題があり、小水力の場合は川の水を利用するので、そこも困るという方もいらっしゃると思います。太陽光については自然環境上問題がないのかという部分もあります。バイオマスについては、エンジンを回すため、コンテナの中には収めますが、まったく音が聞こえないということはないので、そこをどう解決するかという問題もありますし、一概に万事がすべて良いというものでは決して無いわけです。そういったこともあるが故に、皆様方のご意見をお聞きした上で進めたいと考えています。

【渡邊会長】

意見交換をこの後も続けていくのであれば、それぞれの発電方法について、メリットやデメリットの提示をして欲しいです。それを踏まえて、私たちも判断していかなければならないと思います。ただ、聞雲にどうですかと聞かれても、今現在知り得ている知識の中でしか話すことができません。次回はそういった資料もお願いしたいと思います。

【森氏】

わかりました。

【川村集落支援員】

脱炭素事業構想について、太陽光からバイオマスボイラーまで挙げていますが、どれが実現可能かをこれから調査して、有力なものに絞り込んでいくという理解でよろしいでしょうか。

それは、1つとか、併用とかどういうイメージを持っていますか。

【森氏】

浜益区内で全電源の必要量として見たときに、1個の再エネ電源だけでカバーができるかどうか、どういう使い方をするかということになると思います。全電源をカバーするのであれば、併用という形を取らざるを得ないと思います。

【川村集落支援員】

6つの発電方法全部やるということは現実的ではないですか。可能な電力について色々書いてありますが、蓄電池は必要とか、そのような順番は今のところ何もないのですね。

まず資源がどこにあるか。立地条件として、実現が可能かどうかをこれから調べていくということですね。

【森氏】

そうですね。蓄電池に関しては、普段使わない電源を蓄電設備で貯めておいて、いざという時に蓄電池の電力を使うとか、EVの高速充電用に使う等、使い道は色々あります。その電源をどの段階で蓄電できるのかという部分については、太陽光は太陽が出ているときしか発電できませんし、風力は風が吹いていないと発電できません。そうなった時に一番確実なのは、燃料さえ入れていればバイオマス発電は24時間ずっと電気を作れます。夜の稼働分は日中ほど電気を使わないので、蓄電池用の発電をする等、色々な使い方ができます。その場所によって、どういう条件で、どういうものが設置できて、その中でどういう応用が利くかというところを改めて検討しながら判断していくことになると思います。

【徳田委員】

資料の中で、学校等の暖房という部分がありまして、バイオマスボイラー設置というところがありますが、メンテナンスについて風力や太陽光についてはイメージできるのですが、バイオマス発電のメンテナンスとは具体的にどんなものなのでしょう。

【森氏】

エンジントラブル等で、頻繁に止まっているのでは意味がないので、継続して運転させるためにメンテナンスが必要という考え方です。学校用の暖房となると、バイオマス発電からの熱源併給の温水を使うより、場合によってはバイオマスボイラーそのものを学校に設置したほうが、効率が良い場合もあると思います。燃料となる材については、石狩市森林組合さんや、石狩、空知の1帯の森林組合さんと協議会も作っています。加えて、浜益区だと岸本産業さんの協力も必要ですね。燃料の加工施設を作らなければならないので、必然的に地元の業者さんをお願いをしなければなりません。当然そこにも、新たな雇用が必要になってくると思います。

【徳地委員】

浜益でチップを作るということですか。浜益でチップを作って、バイオマスの施設自体もその傍とか学校の傍、暖房使う学校の傍とかに置くということですか。例えば、岩見沢あたりから持って来るわけではないのですか。

【森氏】

基本はこの地域の中で発生するものを使っていきたいということです。大量の燃料を使うプラントではないので、そこは、回しきれんという想定はできると思います。

【渡邊会長】

バイオマスが良さそうな感じがしますね。

【阿部委員】

燃料を燃やす、燃やすとなると煙が出ますよね。その煙というのは、風が吹いたら臭いがするとか、そういうのはありませんか。

【森氏】

まったくないとは言えませんが、薪ストーブをイメージしていただければと思います。ただ、煙突から出るガスに関しては、設備が簡易的なものではないので、ほとんどが白煙です。冬場は寒いので温度差で白煙になりますが、温度が高いときは、ほとんど見えないです。臭いは、単純に木質しか燃やさないなので、木の臭い程度はします。

【渡邊会長】

二酸化炭素の排出は無いってということですか。

【森氏】

二酸化炭素の排出については、カーボンニュートラルというか、木が成長する間に光合成で相殺するという事です。

【阿部委員】

1日で使うチップの量はどのくらい使いますか。

【森氏】

それは、どのくらいの設備かによって変わってきますが、50kwの低圧の熱源併給型を10個置いたとして、年間で千数百本程度だと思えます。

【阿部委員】

それは、山で余ったものを使うということですが、ずっと使えるだけの材料はあるのですか。

【森氏】

北海道の山の話をする、結構伐期というか、年数が経てば経つほど木の価値は無くなっていきます。北海道の山は、現在伐採期を迎えている山が相当あります。今は、木を売っても儲からないので、山主さんはなかなか手を入れられないのが実情です。そこで、我々、林野庁とも協議をしながら、山が駄目になれば、農地も駄目になる、漁場も駄目になる、山の環境保全は凄く重要だと話をしていきます。また、北海道は空いている土地が結構あり、それほど大規模ではないですが、バイオマス燃料用の植林事業に取り組みようとしています。早生樹といって、10年ぐらいで収穫でき、燃料化できるものを植えています。

【阿部委員】

浜益の山はほとんどが個人の持ち物なのですが、連絡がつかない持ち主がたくさんいると思えます。そういうところへの対応はどうしますか。

【森氏】

これは、石狩市の森林譲与税を活用するなど、行政と相談しながら進めることになると思っています。

【水崎委員】

私の前任校が道の補助金を活用して、学校に太陽光発電設備を設置し、ボイラー室に蓄電池を設置して、学校開放の照明用電力として使っていました。また、万が一の時のバッテリーとして使っていました。非常に便利だったと思うことと、浜益中学校はオール電化です。今、生徒が12名ぐらいで、全教室電気暖房ですので、今後、3、4年後に新たな校舎や、教育環境ができたときには前庭に建物が建ちます。そこは、化石燃料を燃やすと聞いています。ただ、現校舎は電気暖房で、物凄い電力を使うので、あわよくば、今基本設計している、次年度から詳細設計に入る段階で、すり合わせは可能ですか。学校に太陽光発電設備を設置して、その電力を学校で使うとか、公共ですと避難所にもなりますので、学校や浜益コミュニティセンターきらりに蓄電をして、何かの時に使う等できないかと思えます。日が当たる場所で太陽光発電をして、プロペラが回ったら鳥がぶつかったら可哀想なので、太陽光発電を使って電気柵を設置したりしてみてもはと思って聞いていました。浜益ではそういう使い方も、可能なのかなということを経験として提供します。

【森氏】

それは、市役所等行政のほうに、どんどん言っていただくようお願いします。

【川村集落支援員】

木を植えて伐採して、発電して、恒久的に循環が回って成り立っていることが、はっきり証明されれば、教育的価値もあると思えます。子どもたちに対する教育的価値は大きいと感じました。

【森氏】

色々な意味でのバックアップを考えれば、今月、石狩で10メガ規模の地域材を使ったバイオマス発電所の建設が始まります。その燃料は年間で大体12万トンぐらい使います。それについては全部、石狩と空知、一部後志から調達します。全て山の材ということではなく、札幌市にも協力いただいて、公園の剪定枝、道路の管理用木の剪定枝、風倒木、河川木等の活用や、ダムに溜まる流

木等も使うと結構な量が集まります。そういったものを山の材と併せて使うこととして、プラントを一つ作ると100億以上のお金がかかりますので、金融機関や地元の業者も含めて、本当にそれだけの燃料がきちんと集まるかという確認や担保を取ることが必要だと思います。その部分も含めて我々が詳細な説明をさせていただいて、実際に利害関係者の皆さんと会話をしながら、継続的に運営できるという判断のもとで事業を開始しますが、我々は100のうち100ではなく、120、130パーセントの量を常に考えていかなければならないと思っています。そうすると、20パーセント、30パーセントの余剰分が出ます。それを、万が一浜益区のエリアで燃料が足りなくなった時に活用する等、受け皿を何枚も用意しています。

この事業が具体的にになれば、その根拠も含めてご説明させていただきたいと思っています。

【柿岡委員】

事業イメージの中で、小水力、風力、太陽光等、色々な発電方法が出ていますが、バイオマスならバイオマスだけに特化しているような、一つの発電方法に特化しているところが多いのですか。

【森氏】

圧倒的に多いのは太陽光発電です。一番わかりやすく、設置が簡単です。しかし、残念ながら夜は全く発電しないのがデメリットです。

【柿岡委員】

各発電方法にメリット、デメリットがあると思いますが、複合的に発電方法を運用している先行事例はありますか。

【森氏】

そのような地域がありますので、次回までに具体例としてお示ししたいと思っています。ただ、規模的にはもの凄く小さいものです。しかし、付加価値をつけて、附帯事業を並行して行っているというイメージです。

【柿岡委員】

では次回、具体的な運用面の数字までわかる資料をお示しいただけると嬉しいです。

【森氏】

わかりました。

【事務局】

今日の会議終了後、知りたい情報や、意見等がありましたら事務局が窓口となって伝えたいと思います。

【渡邊会長】

では、エネルギーの強靱化に関する意見交換につきましては、ここで終了します。また、次回に期待したいと思います。その時には新しい資料等のご用意をお願いいたします。

【事務局】

その他事項として、地域おこし協力隊インターンと、おためし地域おこし協力隊の実施についてお知らせします。

地域おこし協力隊インターンです。地域おこし協力隊員応募希望者が、地域おこし協力隊インターンへの参加を通じて、実際の業務体験や地域協力活動への理解を深めるとともに、浜益への移住に関する不安解消を図り、スムーズな応募、活動開始へと繋げることを目的として行います。募集期間ですが、1月23日から1月27日までの間で、今既に1件お問い合わせをいただいている状況です。インターンとしての活動期間は、想定として2月1日から2月28日までとしており、地域の中へ活動体験に入ることとなりますのでよろしくお願いいたします。

次に、おためし地域おこし協力隊についてです。実施日は2月9日から11日までの3日間実施します。チラシがついております、浜益観光まちづくり推進協議会が運営に携わっている、スノーシューで訪ねる黄金山イチイの木ツアーの準備作業や当日の現地スタッフとして、ツアーの参加者や地域の方々と触れ合い、令和5年度地域おこし協力隊のミッションにもあります、観光プロモーションの企画・実践について体感していただくものです。

続きまして、1月14日のさっぽろ連携中枢都市圏移住促進イベント、1月15日開催のJOIN移住交流&地域おこしフェアへの出展結果の報告です。1日目のイベントでは10組、2日目のイベントでは19組の方が相談に訪れました。退職後、都会の雑踏を離れて自然の中でゆったり過ごしたいという希望の方々が多かった印象を受けました。また、貴重な出展者同士の交流を深める機会でありまして、道内の出展自治体担当者との会話の中では、移住のハードルとして、北海道での冬の生活に不安を感じている相談者が多く、ニュース等で見る、物凄く雪が積もった状況とか、滑る状況とか、極端に悪い部分のイメージを持たれている方が非常に多く、来場者の方から、皆さ

んはこんな苦勞されているのですかというお話が多かったと感じています。それぞれの地域の気候や生活について、情報発信の必要性を感じた2日間でした。

【渡邊会長】

事務局より、地域おこし協力隊インターン、おためし地域おこし協力隊の実施、移住関係イベントの参加結果等の説明を受けました。

申込みがあることを祈って期待したいと思います。

5 次回の開催日程について

【渡邊会長】

次回の会議日程について、事務局からお願いします。

【佐々木課長】

次回の地域協議会の開催につきましては、3月を予定したいと考えております。日程につきましては、改めてご案内をさせていただきます。

【渡邊会長】

次回会議は、3月開催ということですので、再び活発な協議をしていただければと思います。

6 閉 会

【渡邊会長】

それでは、以上を持ちまして、第8回地域協議会を閉会といたします。長時間お疲れさまでした。

令和5年3月20日 議事録確定

石狩市浜益区地域協議会

会長 渡 邊 隆 之